

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI神戸住吉		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月のイベントが豊富である。	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの企画会議を定期的に持ち、数か月先までの内容を決めている。 ・各イベントの中心になる指導員も併せて決めており、前もって準備ができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの希望なども聞きながら、より満足していただけるプログラムを提供できるよう、創意工夫を重ねていく。
2	利用されたお子様の情報やその日の活動プログラムについて、指導員間で情報共有が十分に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の中で、支援開始前と終了後に出勤スタッフ全員でミーティングを実施している。 ・気づいたことや特記事項などの共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な時間を確保できているが、その反面終業時間を超過してしまうこともある。 ・全クルールの終了後、速やかにミーティングを始められるようにする。
3	教室の広さやスペースを有効活用できている。	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちや保護者の要望などを聞いて、個別で特訓会なども開催している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も子どもたちの状況や要望に合わせて、楽しく、安全に運動に取り組めるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域・関係機関との連携、移行支援が弱い。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内支援の質向上を優先してきたため、外部連携に手が回っていない。 ・園、学校・定期的に繋がる「窓口」や「型」が未整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ・併行利用している園、就学予定の園・学校への情報する準備を整えることから着手。 ・全連携を目指す「できるところから・1件ずつ」の方針を明確化。
2	家族支援・保護者同士のつながりが弱い。	<ul style="list-style-type: none"> ・親子プログラムは実施しているが目的や内容が十分に伝わっていない。 ・保護者同士が自然に交流できる「場・仕掛け」が未設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子プログラムの位置づけを明確化をする。
3	保護者に情報が届いていないことがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信はしているが日常の連絡に埋もれている。 ・保護者にとって「今知りたい情報」と「将来的に意味のある情報」が整理されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・「やっています」ではなく「これは〇〇のための取り組みです」と意味づけして伝える。 ・情報を行動につながる単位に再編集する必要がある。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMI神戸住吉

公表日 2026年 2月 28日

利用児童数 : 40

回収数 : 13

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13				広くて明るいので良いと思います。	ありがとうございます。 これからも適切に運動ができる環境を維持して参ります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	13				出席の振替でお子様の特性が出ている際に、人手が足りていないと感じる時がありました。	ありがとうございます。 職員の資質の向上に努めて参ります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	13					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10			3	子供への注意の仕方に不安を感じる場面があります。正しいことを伝える方法に特に子供目線でご検討いただけるとさらに良いなと感じています。	ありがとうございます。 引き続き、職員の専門性の向上に努めてまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12			1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12			1		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	1		1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	2		1	大人から強い口調で言われることが多かった過去から「行きたくない。怖い」というようになっており、行ったら楽しんでいるはずなのに、どうして・・・と少し悩んでいます。	ありがとうございます。 子供たちが安心して通える環境を提供できるよう、努めて参ります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	7	1	1	4		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12	1				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	1	1	4	把握できていないだけかも知れません。	ありがとうございます。 実施する場合は保護者の皆様への周知を徹底して参ります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	13					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	2				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	13					
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3		1	9			

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11			2	子供が行き渋ることやお昼寝のタイミングと重なり不機嫌な可能性を伝えると、安心できるような言葉とともに受け入れていただけるLINEのやりとりがいつも迅速で助かります。	ありがとうございます。 今後も迅速に対応できるよう、努めて参ります。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	13					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11			2		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11			2		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	11	1	1		・強く叱責しているわけではなくとも、音に敏感なため、注意の対象が他人であつても大きな声で注意を受ける環境が苦痛に感じているようです。皆さんがそうでは無いのだと思いますが、普段たくさん叱られているので、療育時は叱る必要の無い環境(利用者の距離を保つなど)が整うと安心して通えるかも知れません。 ・親の見学も可能なので子供の気持ちに寄り添って参加できていて助かります。	ありがとうございます。 状況に応じて適切な環境を提供できるように努めて参ります。また、保護者の皆様と利用される子供たちが安心して通っていただける環境を作れるよう、努めて参ります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	11	1	1		工作やイベントをとても楽しみにしています。	ありがとうございます。 今後も工作やイベントを計画して参ります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	11	2			毎月のイベントプログラムがとても良い経験になっていて親も勉強になります。	ありがとうございます。 今後も満足して通っていただける環境を整えて参ります。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	TAKUMI神戸住吉				公表日	2026年 2月 28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・ 体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		十分なスペースがあり、運動の能力に応じて場所を区切っても活動ができる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		法律上の人数は満たしている。体調不良で近くにも教室がある為、ヘルプ対応などで補うこともできる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	角など危険が予測できる部分に対してクッション材などを貼っている。	・玄関・トイレ前に階段がある。現状配慮が必要な方はいらっしゃらないが配慮が必要な方がいらっしゃる場合に対応を検討していく。 ・用具行き場等、子供が入れない場所は色のテープで区切っているが、簡単に入れてしまう。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日掃除を行い、消毒や用具の整備などを行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		更衣室や面談室があり、着替えやクールダウンの際に使用できるようになっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		ミーティングを就業前後に取っており、その日の目標、その日の出来事等を話し合っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		アンケートでのご意見を真摯に受け止めると共に、最大限の業務改善を図っていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	2	教室内での意見交換は日々の会話などを通して出来ている。	職員の意見を聞くという特定の時間を設けているわけではない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		外部評価は行ってない。今後必要に応じて検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		新卒者以外にも、既存の社員向けの研修が度々開催されている。	
その他	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	2	支援プログラムを適切に作成し、職員間や保護者との共有をしている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		面談や会議を通して一人ひとりの状況を分析し、計画書を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		支援計画書の作成前(面談前)には、出勤している職員全員で、子供の強みや課題点を話し合う時間を取っている。支援計画書の作成後は職員全員が目を通している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援計画書は職員全員に共有されている。また個別の支援記録と併せて記載されており、いつでも確認できるようにしている。小集団の中でも個々の課題に沿って支援を行うことが出来ている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		標準化されたフォーマルなアセスメントツールとインフォーマルなアセスメントツールを使用している。毎日、子供の様子をミーティングにて確認をしている。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		個別支援計画書にすべての項目の記載があり、適切に支援目標を設定されている。また保護者とも話し合い、具体的な支援内容を決定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	2	イベント内容について検討する時間を前もって設け、指導員全員で話し合う機会を作っている。	療育中の活動に関しては、療育前に担当の振り分けや支援内容を話し合っていくべき。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1	メインの活動内容やクールの担当者をカレンダーに記入し、連続して同じ職員が担当することがないようにしている。	固定化しないように工夫をしているが、利用される子供の希望や状況を考慮すると内容が固定化されがちなので工夫が必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		それぞれのこどもの状況に応じて個別活動、集団活動とを適宜組み合わせ、一人ひとりに合わせて支援が出来ている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	毎回、療育前にミーティングを必ず行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		療育終了後にミーティングを行い、その日に利用した子供の様子を一人ひとり振り返り、些細なことでも共有し、記録するようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		どんなに小さい出来事でも記録するようにし、次回の療育の手立てにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリングを行い、指導員全員で検討している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		子供の様子について、予め職員同士意見を出し合ったうえで、会議に参加するようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2	適宜、他事業所などには出向いて、情報共有をするように努めている。	現状、そのような体制は構築していない。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	4		アンケートの配布や見学等、情報共有の機会は以前に比べて増えてはいるが、まだ十分とは言いきれない。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	4		進学先へのアプローチはできていない。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	4		現状、連携は取れていない。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5	幼稚園等の職員とは、周知活動で関わる機会は持つことができている。	地域との交流の場はまだ十分とは言えない。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		ご利用の際にフィードバックの時間を取り、その日の様子や課題を伝えるとともに、ご家庭での様子も聞いている。		

保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	創作(以下、親子プログラム)を隔週で実施している。	ご家族が参加するような研修の機会は無い。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約の際に、児童発達支援管理責任者から運営規定、支援プログラム、利用者負担などについて丁寧に説明をしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		支援計画書の作成前に子供の意向を聞いている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		個別支援計画の作成後は、保護者に対してその内容を基に説明をし、サインを貰っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		面談を行う機会は定期的に持っている。療育後のフィードバックの短い時間でも最近の様子や困りごと等を聞くようにしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	3		親子プログラムの実施により兄弟同士の交流の機会は確保できているが、保護者同士で交流する機会の設定にはまだ至っていない。保護者会も実施できていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		速やかに対応することを心掛けており、職員全体で相談や申し入れに対応できている。相談内容によっては、文面や電話で終わらず、直接お話できるように面談の時間を設けている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		毎月のお便りの発行やインスタグラムへの発信、ブログの更新等を通して、日々の様子を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		鍵付きのロッカーに保管しており、取り扱いには十分に留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		職員全員が子供の特性などに合わせて、普段の伝え方を工夫している。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		地域との交流はできていない。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等とともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		定期的に職員全員でマニュアルの読み合わせ・訓練を実施している。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		火災・地震・不審者など、様々な危険に備えて定期的に訓練をしている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1	契約時にプロフィールを記入していただき、利用日までに確認するようにしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	1	4	プロフィールなどでアレルギーの有無をリストアップし、職員全員が把握できるようにしている。	医師の指示書がある子供がいない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		毎日、機器の安全確認を実施し、定期的に避難訓練も実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全計画を作成し、契約時に保護者へ取り組みなどを説明している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット報告書を記載する前に、指導員間で共有や今後の対策を話し合っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		年間の中でスケジュールを組み、定期的に研修を実施している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		契約時に保護者に書面と合わせて説明を行っており、個別支援計画書にも記載している。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI神戸住吉		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが楽しみながら通える活動内容と安心できる環境が整っている。	<ul style="list-style-type: none"> 活動担当を固定せず、多様なプログラムを実施している。 自由遊び・自己選択の時間を確保している。 イベントも毎月、行うようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが物事を選択できる場面をさらに増やし、主体性をより引き出すようにしていく。 成長段階に応じた活動の難易度調整をより明確にする。
2	一人ひとりに合わせた丁寧な個別支援・計画性が高い。	<ul style="list-style-type: none"> 支援計画作成前に職員全員で子どもの強み・課題を共有している。 毎日のミーティングで様子を振り返り、支援に即反映させている。 小集団の中でも個別特訓会を実施するなどして、個別課題を意識した支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の成果を、より分かりやすく可視化して保護者に共有していく。
3	職員間の連携力とチーム支援体制が整っている。	<ul style="list-style-type: none"> 療育前後には必ずミーティングを行っている。 ヒヤリハット・小さな変化も共有する文化がある。 イベントや活動内容をチームで検討できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の意見を聞く「専用の時間や仕組み」を明確に設ける。 新人・経験年数の浅い職員でも意見を出しやすい場づくりをしっかりと整える。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域・関係機関との連携が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> 学校・医療・福祉機関との接点が限定的である。 地域交流イベントの実施経験が少ない。 園、学校と定期的に繋がる「窓口」や「型」が未整備。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事・協議会への継続的な参加を引き続き行う。 周知活動の強化を行う。
2	保護者同士の交流・家族支援の機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 親子プログラムは実施しているが目的や内容が十分に伝わっていない。 保護者同士が自然に交流できる「場・仕掛け」が未設定。 	<ul style="list-style-type: none"> 親子プログラムの位置づけを明確化をする。
3	保護者に情報が届いていないことがある。	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信はしているが日常の連絡に埋もれている。 保護者にとって「今知りたい情報」と「将来的に意味のある情報」が整理されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 「やっています」ではなく「これは〇〇のための取り組みです」と意味づけして伝える。 情報を行動につながる単位に再編集する必要がある。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMI神戸住吉

公表日

2026年 2月 28日

利用児童数 : 48

回収数 : 22

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	21	1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20	2				
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21	1				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21	1				
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	1			息子に寄り添ったサポートに感謝しています。	ありがとうございます。 今後も一人ひとりに合わせたサポートができるよう、努めて参ります。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20	1		1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19	3				
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	1		1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21	1				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21	1			工作は毎回楽しみにしており、お家で飾っています。	ありがとうございます。 今後も子供たちが楽しめる活動を企画して参ります。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4		6	12		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20	2				
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21	1				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	1	1	5		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	19	3				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	3		1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	2				
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	8		11			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15	2	5		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20	2			
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19	1	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21		1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	1	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19	2	1	一度は記憶にあります。	ありがとうございます。子供たちの安全が守られるよう努めて参ります。また訓練を実施する際には、保護者様への周知も併せて行って参ります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19	1	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	2	4	今まで事故は無いから分からないが、あったらきちんと説明を下さと思う。	ありがとうございます。これからも子供たちの安全を守りながら、療育が進められるよう努めて参ります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19	3			
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17	4	1	嫌がることなく通えています。	ありがとうございます。今後も子供たちが楽しく通える環境を提供して参ります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	2		学校に見学に来ていただき、ありがとうございました。よく見てくださり嬉しいです。	ありがとうございます。今後も一人ひとりに寄り添った支援を提供できるよう、努めて参ります。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		TAKUMI神戸住吉				公表日	2026年 2月 28日
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		十分なスペースがあり、運動の能力に応じて場所を区切って活動ができる。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		4	1	現在配置されている職員の数に則った定員で運営を行っている。近くにも教室がある為、ヘルプ対応などで補うこともできる。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		4	1	角など危険が予測できる部分に対してクッション材などを貼っている。	玄関・トイレ前に階段がある。現状配慮が必要な方はいらっしゃるが配慮が必要の方がいらっしゃる場合に対応を検討していく。用具行き場等、子供が入れない場所は色のテープで区切っているが、簡単には入れてしまう。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		5		毎日掃除を行い、消毒や用具の整備などを行っている。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		5		更衣室や面談室があり、着替えやクールダウンの際に使用できるようになっている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		ミーティングを就業前後に取っており、その日の目標、その日の出来事等を話し合っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		アンケートでのご意見を真摯に受け止めると共に、最大限の業務改善を図っていく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		教室内での意見交換は日々の会話などを通して出来ている。	職員の意見を聞くという特定の時間を設けているわけではない。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		外部評価は行っていない。今後必要に応じて検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1	新卒者以外にも、既存の社員向けの研修が度々開催されている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1	支援プログラムを適切に作成し、職員間や保護者との共有をしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		面談や会議を通して一人ひとりの状況を分析し、計画書を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		支援計画書の作成前(面談前)には、出勤している職員全員で、子供の強みや課題点を話し合う時間を取っている。支援計画書の作成後は職員全員が目を通している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援計画書は職員全員に共有されている。また個別の支援記録と併せて記載されており、いつでも確認できるようにしている。小集団の中でも個々の課題に沿って支援を行うことが出来ている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	標準化されたフォーマルなアセスメントツールとインフォーマルなアセスメントツールを使用している。毎日、子供の様子をミーティングにて確認をしている。		

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		個別支援計画書にすべての項目の記載があり、適切に支援目標を設定されている。また保護者とも話し合い、具体的な支援内容を決定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	イベント内容について検討する時間を前もって設け、指導員全員で話し合う機会を作っている。	療育中の活動に関しては、療育前に担当の振り分けや支援内容を話し合っていくべき。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		メインの活動内容やクールの担当者をカレンダーに記入し、連続して同じ職員が担当することがないようにしている。	固定化しないように工夫をしているが、利用される子供の希望や状況を考慮すると内容が固定化されがちなので工夫が必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		それぞれのこどもの状況に応じて個別活動、集団活動とを適宜組み合わせ、一人ひとりに合わせて支援が来ている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎回、療育前にミーティングを必ず行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		療育終了後にミーティングを行い、その日に利用した子供の様子を一人ひとり振り返り、些細なことでも共有し、記録するようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		どんなに小さい出来事でも記録するようにし、次回の療育の手立てにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリングを行い、指導員全員で検討している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5		創作活動は行っている。	地域との交流が持っていない。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		毎回、自由遊びの時間を設けている。またグループ活動時の役割や順番なども子供たちで話し合ってもらっている。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1	子供の様子について、予め職員同士意見を出し合ったうえで、会議に参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	4	保育教育とは連携して支援を行う体制が整いつつある。	保育教育以外の施設や地域との交流は出来ていない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	2	3	一部の学校と連携を取っており、難しい場合、保護者様を通じて情報共有を行っている。	学校のとの関りが薄いことがある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	3		就学前に行っていた園へのアプローチが出来ていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	4		学校を卒業されるまで利用されていた実績がない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3		現状、連携は取れていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5		地域との交流が持っていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3	主に児童発達支援管理責任者ができる限り参加している。その後共有を行っている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		ご利用の際にフィードバックの時間を取り、その日の様子や課題を伝えるとともに、ご家庭での様子も聞いている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		創作(以下、親子プログラム)を隔週で実施している。	ご家族が参加するような研修の機会はない。	

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1	契約の際に、児童発達支援管理責任者から運営規定、支援プログラム、利用者負担などについて丁寧に説明をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		支援計画書の作成前に子供の意向を聞いている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		個別支援計画の作成後は、保護者に対してその内容を基に説明をし、サインを貰っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		面談を行う機会は定期的に行っている。療育後のフィードバックの短い時間でも最近の様子や困りごと等を聞くようにしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4		親子プログラムの実施により兄弟同士の交流の機会は確保できているが、保護者同士で交流する機会の設定にはまだ至っていない。保護者会も実施できていない。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	2	速やかに対応することを心掛けており、職員全体で相談や申し入れに対応できている。相談内容によっては、文面や電話で終らず、直接お話しできるように面談の時間を設けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		毎月のお便りの発行やインスタグラムへの発信、ブログの更新等を通して、日々の様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		鍵付きのロッカーに保管しており、取り扱いには十分に留意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		職員全員が子供の特性などに合わせて、普段の伝え方を工夫している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		地域との交流はできていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		定期的に職員全員でマニュアルの読み合わせ・訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		火災・地震・不審者など、様々な危険に備えて定期的に訓練をしている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	1	契約時にプロフィールを記入していただき、利用日までに確認するようにしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	3	プロフィールなどでアレルギーの有無をリストアップし、職員全員が把握できるようにしている。	医師の指示書がある子供がいない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		毎日、機器の安全確認を実施し、定期的に避難訓練も実施している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全計画を作成し、契約時に保護者へ取り組みなどを説明している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット報告書を記載する前に、指導員間で共有や今後の対策を話し合っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	1	年間の中でスケジュールを組み、定期的に研修を実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		契約時に保護者に書面と合わせて説明を行っており、個別支援計画書にも記載している。	